

総合的な学習の時間の第1の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の教育目標

10年先を透徹した生徒の探究学習

各学校で定める目標と育成する資質・能力

- 【高潔】自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する
【誠実】まっすぐ学びに向き合う、誠実で知的な学びの場となる
【剛健】質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける
【協和】異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる

総合的な学習の時間の学習評価

【学習評価】

- (1) 自分なりに疑問や課題を持ち、協働してその解決に向けて情報の収集・整理・分析を行い、結果をまとめ表現する。
(2) 身近なことから地域・国・世界に視野を広げ、社会的課題に対し、自分の考えを受け手に合わせて表現し、解決に向けて社会に参画する。
(3) 情報を論理的、数理的に処理するといった科学的な知見に基づいて探究活動を行い、自他を客観的に捉える。

【評価方法】

- ・ポートフォリオ等による記録、自己や他者による学習評価
・生徒や保護者と教員の面談による学習状況のチェック

生徒の実態

- ・素直で挨拶などもよくできるが、自律した生活習慣が身に付いているとは言い難い。
・何事にも関心が高く、学習や学校行事などにも意欲的、挑戦的ではあるが、自ら目標を定め、情報に基づいて考察し、それを表現するといった一連のプロセスを計画的に実践するには教育的支援を要する。
・学習能力が高く個性もあるが、それらを自他ともに認め合い、協働してそれらを活かす力に欠ける。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

- ・丁寧かつ計画的で分かりやすい授業
・少人数学習による個に応じた授業
・対話的、協働的な授業
・家庭や関係諸機関との密な連携
・生徒・保護者との面談
・スクールカウンセラーとの連携
・学年・学校での情報共有

目指す生徒の姿

- ・時間やルール、モラルの遵守といった基本的かつ自律した生活習慣が身に付いた生徒。
・学習や学校行事等において、自ら目標を定め、情報の収集や分析ならびに考察を行い、それらを表現することに意欲的、計画的かつ協働的に取り組むことができる生徒。
・自他の個性を容認し、それらを活かすことで、多少の困難があっても様々な諸課題の解決に寄与しようと挑戦する生徒。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

中高一貫教育校の強みを生かし、「総合的な学習の時間」（中学）と「総合的な探究の時間」（高校）を関連付け、6年間継続した教科横断的な探究活動を推進する。

- 1 課題の発見と解決に必要な知識・技能・態度を身に付ける。
(1) 身の回りや地域・国・世界における諸課題に気付く。
(2) 諸課題に係る複雑な要因を紐解き、本質を捉えた課題を設定する。
(3) (2)の課題解決のために、様々な方法を用いて多くの情報を収集・整理し、さらに分析する。
(4) (3)をもとに、課題の解決策を複数個導く。
(5) 導き出した解決策を選択した場合に起こり得ること等を考察し、有力な1つの解決策を選択する。さらに選択した解決策を可能な範囲で実行する。
(6) 評価を行い、これまでのプロセスを吟味し、必要に応じて課題を再設定し、よりよい課題解決を試みる。
2 探究の意義や価値を理解する。
社会的課題に対して解決策は1つとは限らないこと、しかしその解決策を導く考え方や態度・主体性・協調性等はよりよい社会を実現するために必要であることを、一連の探究活動を通して学習する。
3 物事を客観的に捉える技法や態度及び他者からの理解や批判を得るための表現力を培う。

学習活動、指導方法等

【学習活動】

Ryugasaki Quest（地域探究；1・2・3年生）

- ・地域課題をテーマにした基本的な探究学習を実践する。
・伝統文化や経済、自然環境等をテーマにしたフィールドワーク・調べ学習（テーマ例；龍ヶ崎市の活性化、牛久沼の水質や生物調査等）
・企画を立てるのみならず、地域の大人を巻き込んだ実装
・文献やICT機器等を用いた情報収集のスキル向上
・科学的に探究するためのプロセスや思考ツール等の学習
・ペアやグループで取り組むことによる対話的かつ協働的な学習スタイルの習得
・地域企業や研究機関への視察や講演、アドバイスの依頼といった地域資源を活用した探究学習
・修学旅行における地域学習（他県の地域活性化の取組を学ぶ）との連動
・国内外の語学研修やALTを活用した英語による表現力の養成
・各種発表会、コンテストへの積極的な参加（プレゼンテーション力やコミュニケーション力の向上）

【指導方法】

- 教員の専門分野を活かしつつ、教員の連携により教科横断的に指導する。
○アクティブラーニングを意識した教科指導を実践する。
○地域の機関（市役所・商工会・交通機関等）と連携した学習活動を推進する。
○中高といった校種の枠を超えた、中高一貫教育校ならではの学習機会を与える。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

中高一貫教育校の強みを生かし、「総合的な学習の時間」（中学）と「総合的な探究の時間」（高校）を関連付け、6年間継続した教科横断的な探究活動を推進する。

- 1 課題の発見と解決に必要な知識・技能・態度を身に付ける。(1)身の回りや地域・国・世界における諸課題に気付く。(2)諸課題に係る複雑な要因を紐解き、本質を捉えた課題を設定する。(3)(2)の課題解決のために、様々な方法を用いて多くの情報を収集・整理し、さらに分析する。(4)(3)をもとに、課題の解決策を複数個導く。(5)導き出した解決策を選択した場合に起こり得ること等を考察し、有力な1つの解決策を選択する。さらに選択した解決策を可能な範囲で実行する。(6)評価を行い、これまでのプロセスを吟味し、必要に応じて課題を再設定し、よりよい課題解決を試みる。
2 探究の意義や価値を理解する。
社会的課題に対して解決策は1つとは限らないこと、しかしその解決策を導く考え方や態度・主体性・協調性等はよりよい社会を実現するために必要であることを、一連の探究活動を通して学習する。